

■工藤平助 経世思想家。田沼意次に「赤蝦夷風説考」献上。家計逼迫に社交と実力で豪勢になるも、寛政の改革で没落。

くどうへいすけ

1734= 江戸で、紀州藩江戸詰の藩医長井基孝の三男に生まれる。幼名長三郎。

1743= 9歳 :

菅原伝授十・1746=12歳 : 前藩主の侍医だった工藤丈庵が仙台藩医となるに当たり妻帯条件だったことから、上津浦ゑんと結婚するのに合わせて、養子となり、周庵を名乗る。

青木昆陽に師事したことを皮切りに、以後、蘭学者はじめ多方面に師友を広げて行く。

徳川吉宗没・1751=17歳 :

1752=18歳 :

山脇東洋解剖1754=20歳 : 工藤家を継ぐ。この頃、築地に居住。

自然真管道・1755=21歳 : 養父丈庵が死去。

生まれつき器用多才で、自ら篆刻し、藩主のため調理して喜ばれ、その腕前が広く知られて、“平助料理”として伝承されるまでになって行く。訴訟の助っ人など、様々な形で礼金も得、財を築くことになる。

宝暦事件・1758=24歳 : この頃、仙台藩医桑原如璋の長女と結婚。

大岡忠光没・1760=26歳 :

1761=27歳 :

1763=29歳 : 第一子長女あや子(のち只野真葛)誕生。

加賀千代句集1764=30歳 : 番医となり、閨室の治療を司る。_江戸定詰を命じられ、

蘭銭初輸入・1765=31歳 : 長男長庵が誕生。

意次側用人・1767=33歳 : 機密のこと(おそらく藩主重村の官位昇進運動)にかかわって功を賞せられる。

患者として、大名や藩士、著名な蘭学者、林子平・高山彦九郎ら愛国の士、村田春海ら文士墨客ばかりか、歌舞伎役者、侠客、芸者まで出入りする幅広さで、

1770=36歳 :

御蔭参流行・1771=37歳 : この頃、仙台の町人から鑄銭願いを頼られる。長庵・しず子、松平康福邸に招かれる。

田沼意次老中・1772=38歳 : この頃からオランダ物、工藤家へ。桂川甫周をたびたび訪問するなど、蘭学知見の多くを得る。

大原騒動・1773=39歳 : *藩主伊達重村により還俗蓄髪を命じられ、平助と改名。以後、多方面に活躍して行く。

解体新書・1774=40歳 : 次男源四郎が誕生。

黄表紙始・1775=41歳 : 義母桑原やよ子より妻の元に朝顔を添えた文。

雨月物語刊・1776=42歳 : 亭を新築、

1777=43歳 : さらに家を新築、話題となり、祝いの客多数。近習を命じられる。真葛に縁談あるも認めず。

船蝦夷来・1778=44歳 : 真葛を仙台藩屋敷へ奉公に出す。

源内獄中死・1779=45歳 : 藩主、工藤家にお成り。

1780=46歳 : 前野良沢家で大槻玄沢と出会い、遊学延長を玄沢の藩主に進言、実現させ、以後、親戚同様の付き合い。田沼意次用人に相談されて、蝦夷地開発を提案し、一書にまとめるように頼まれたことを、藩主重村に打明け、その手柄にすべく、吉雄や杉田玄白が入手していた蘭書をもとに、桂川や大槻らの助力を得て、

1781=47歳 : 「赤蝦夷風説考」の下巻が先に成る。

蘭学階梯・1783=49歳 : 真葛が伊達詮子の結婚に伴い井伊家に遷る。*「赤蝦夷風説考」上巻を含め完成。「報国以言」成る。

意刺殺事件・1784=50歳 : 火災で工藤家焼失、貴重なものまで失う。_幕府勘定奉行松本秀持に「赤蝦夷風説考」について説明し、

蝦夷初調査・1785=51歳 : *蝦夷奉行就任のうわさまで出るが、本業の方がおろそかになって経済的に苦境に陥り、

田沼意次失脚・1786=52歳 : 長男長庵が死去。末子照子誕生。_林子平「海国兵談」に序を書く。大槻玄沢の仙台藩召し抱えに助力。

寛政改革始・1787=53歳 : この頃、浜町に住む。養母ゑんが死去。井伊直富の看護するも死去。*寛政の改革で社会的地位を失い、

1788=54歳 : 真葛が奉公先を辞めて戻る。この年、娘しず子が雨森権市と結婚か。

初の横綱・1789=55歳 : 数寄屋町に転居。真葛を酒井家中の老人と結婚させるが、まもなく離婚し、

異学の禁・1790=56歳 : 帰宅。娘つね子が加瀬某と結婚。娘しず子が死去。

混浴禁止・1791=57歳 : 妻が死去。

ワクマン来日・1792=58歳 : 弟子米田元丹からロシア情報を得て、

松平定信引退・1793=59歳 : 「工藤万幸聞書」執筆。

昌平饗始・1797=63歳 : 藩主の次男伊達齊宗の治療に成功。只野伊賀と再婚した真葛が源四郎に送られ仙台へ。_「救瘟袖曆」執筆。

古事記伝・1798=64歳 : 「救瘟袖曆」二篇成った後、

伊能測量始・1800=66歳 : _没した。